

2019. 9. 25

資料 2 - 5

# カブトガニの生態・笠岡のカブトガニ繁殖地の歴史と現状・課題について



笠岡市立カブトガニ博物館  
主任学芸員 森信 敏



昭和30年代の干潟

# 内容

- 1, カブトガニについて
- 2, 笠岡の繁殖地の歴史
- 3, 笠岡のカブトガニ生息数の推移
- 4, カブトガニの保護と今後の課題



# 1, カブトガニについて

英名 : Horseshoe crab

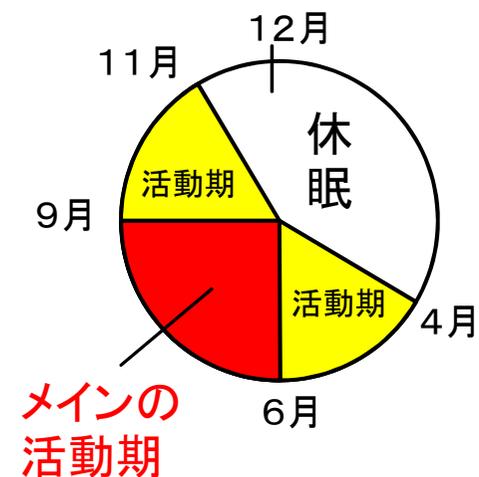
学名 : *Tachypleus tridentatus*

メス : 60 cm      3 kg

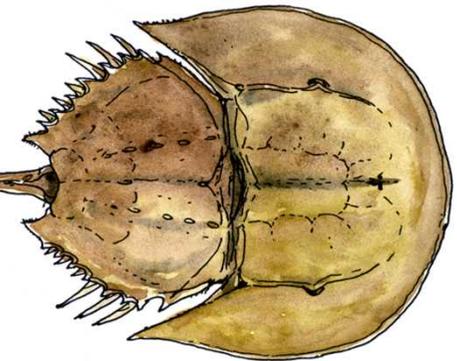
オス : 50 cm    1.5 kg



水温が18℃以上で活動することができる



# カブトガニのライフサイクル



成体  
13~15回脱皮して  
メス(全長約60cm)  
オス(全長約50cm)  
になる。  
写真のようにつがい  
になって産卵に来る。



約10年



寿命は、正確には分  
かっていないが、20年  
という飼育記録がある。

約5年

第10齢幼生  
(全長約13cm)  
そろそろ干潟から水深  
の深い場所へ生活場  
所を移動する。  
ちなみに10齢とは、9  
回の脱皮のこと。



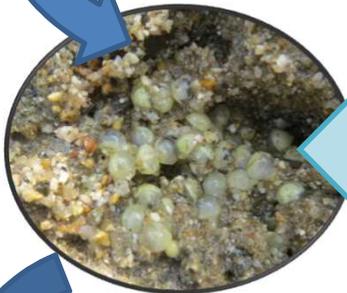
約5年

第1齢幼生  
(全長約7mm)  
砂から出て干潟  
へ移動し、翌年  
の春までエサも  
食べない。



約15日

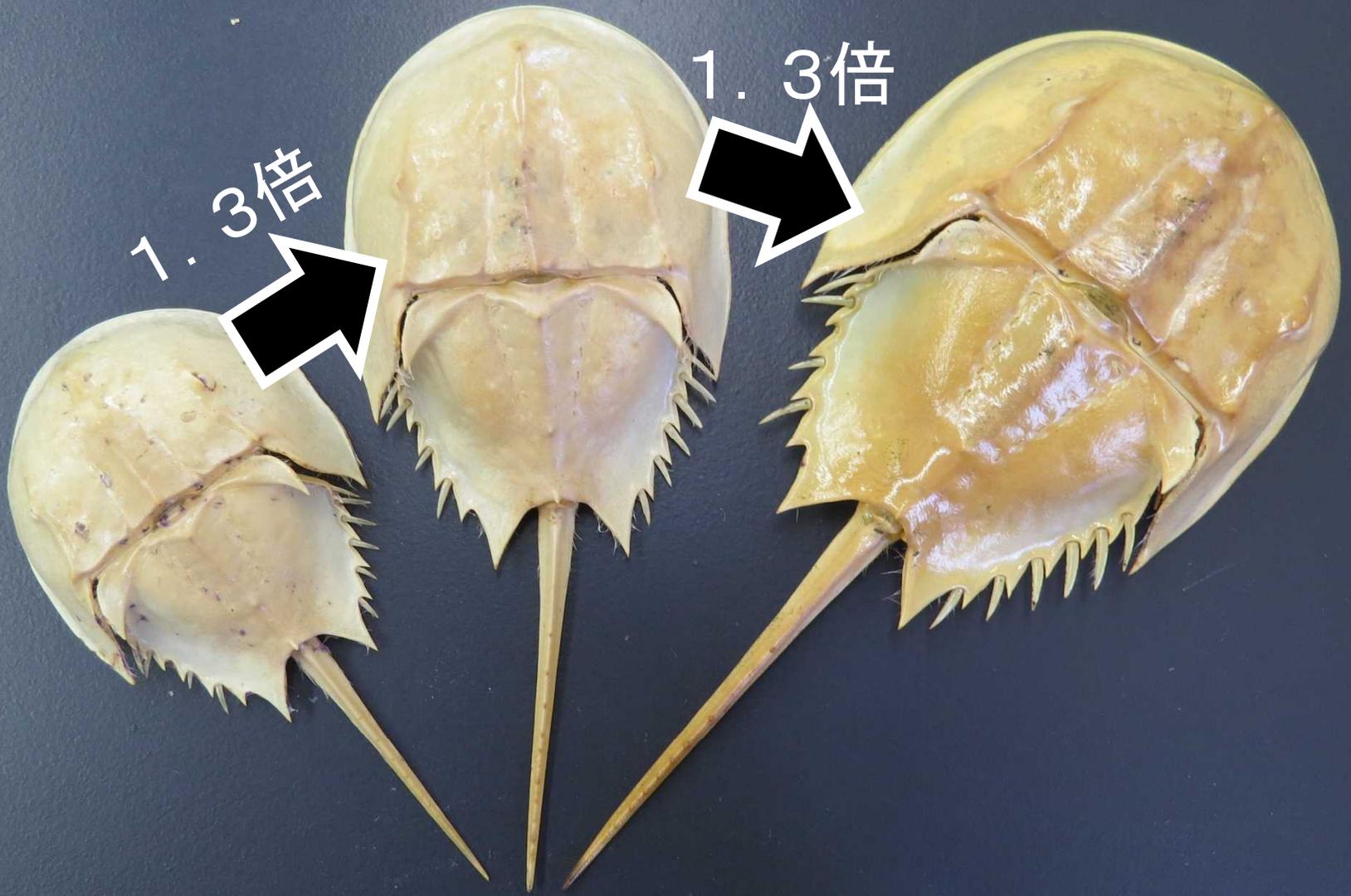
卵の中の幼  
生が後ろ向  
きにくるく  
る回るので、  
回転卵と呼  
ばれる。



約35日

産卵は、6月  
~8月の潮  
の高い夜、  
砂浜で行わ  
れる。





カブトガニは脱皮して大きくなる！

カブトガニが生息するには、干潟はなくてはならない環境！

- ・卵から産まれたカブトガニの幼生は、砂から這い出て、干潟へ移動する。
- ・脱皮を繰り返し、第10齢幼生の大きさになるまで(約5年間)、干潟で生息する。

つまり

**干潟が無いと生息できない！**



## 2, 笠岡の繁殖地の歴史

- ・昭和3年(1928年)  
「生江浜海岸」が「天然記念物カブトガニ繁殖地」として国の指定を受ける
- ・昭和44年(1969年)  
笠岡湾干拓のため指定地が干陸化  
(1, 841ha)
- ・昭和46年(1971年)  
現在の指定地である「神島水道」が  
「天然記念物カブトガニ繁殖地」として  
国の追加指定を受ける
- ・平成6年(1994年)  
「生江浜海岸」が指定解除となる



干拓後  
(北東から撮影)



干拓前  
(南東から撮影)

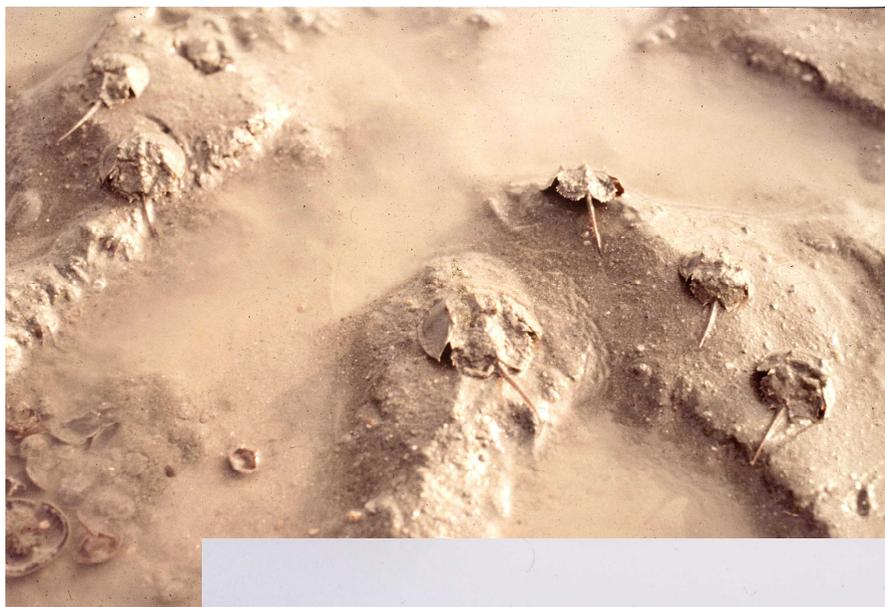
# 天然記念物「カブトガニ繁殖地」を上から



平成8年  
(1996年)



昭和44年  
(1969年)



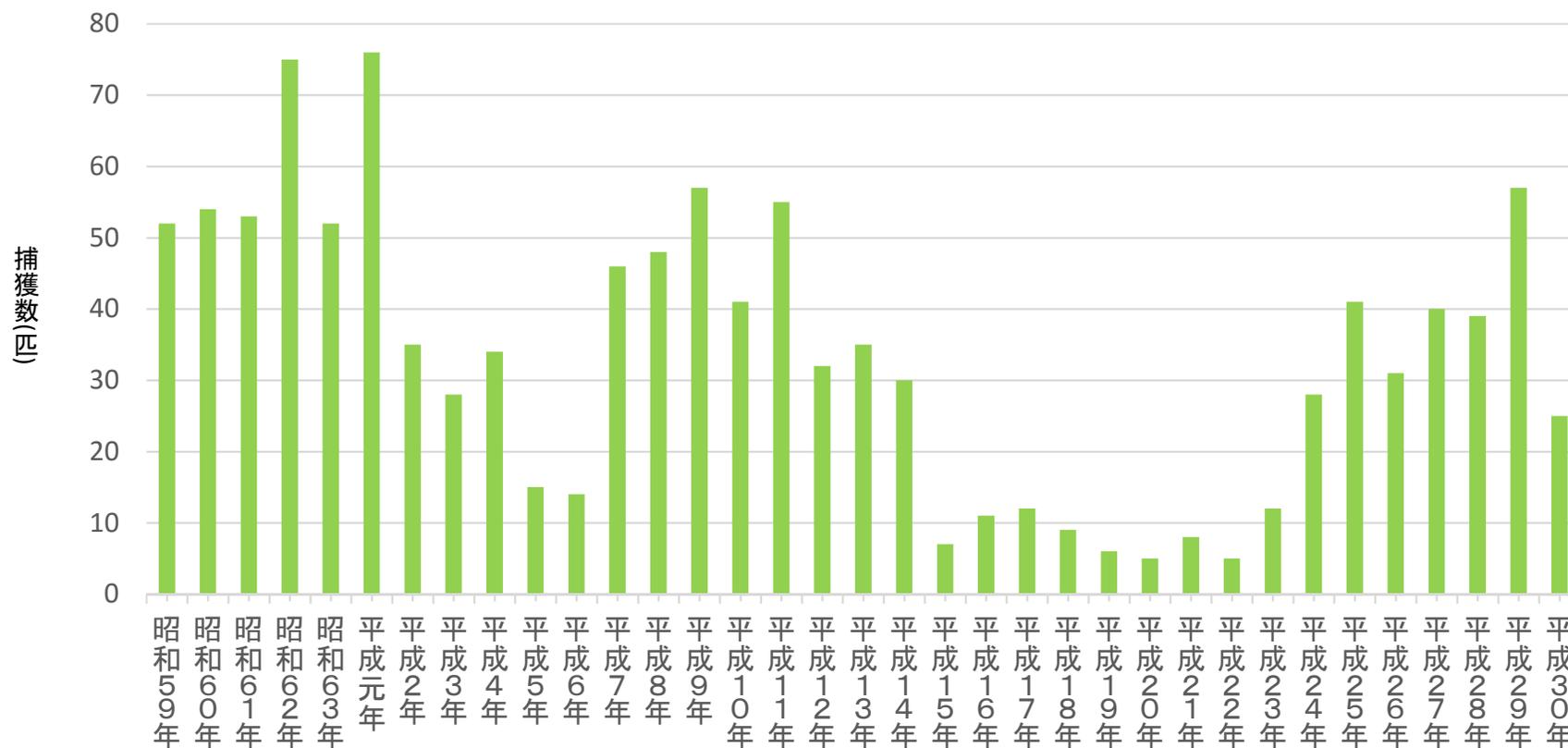
昭和30年代の干潟にはかなりの数のカブトガニが生息していた。



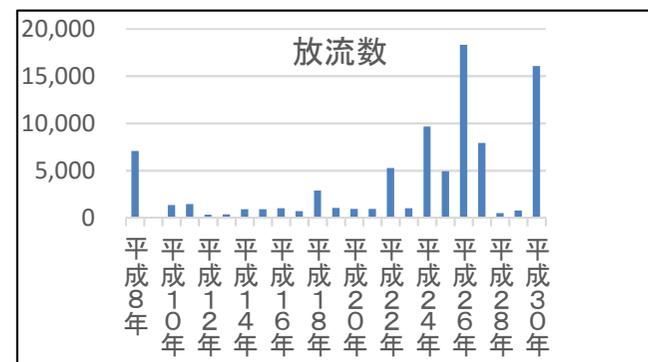
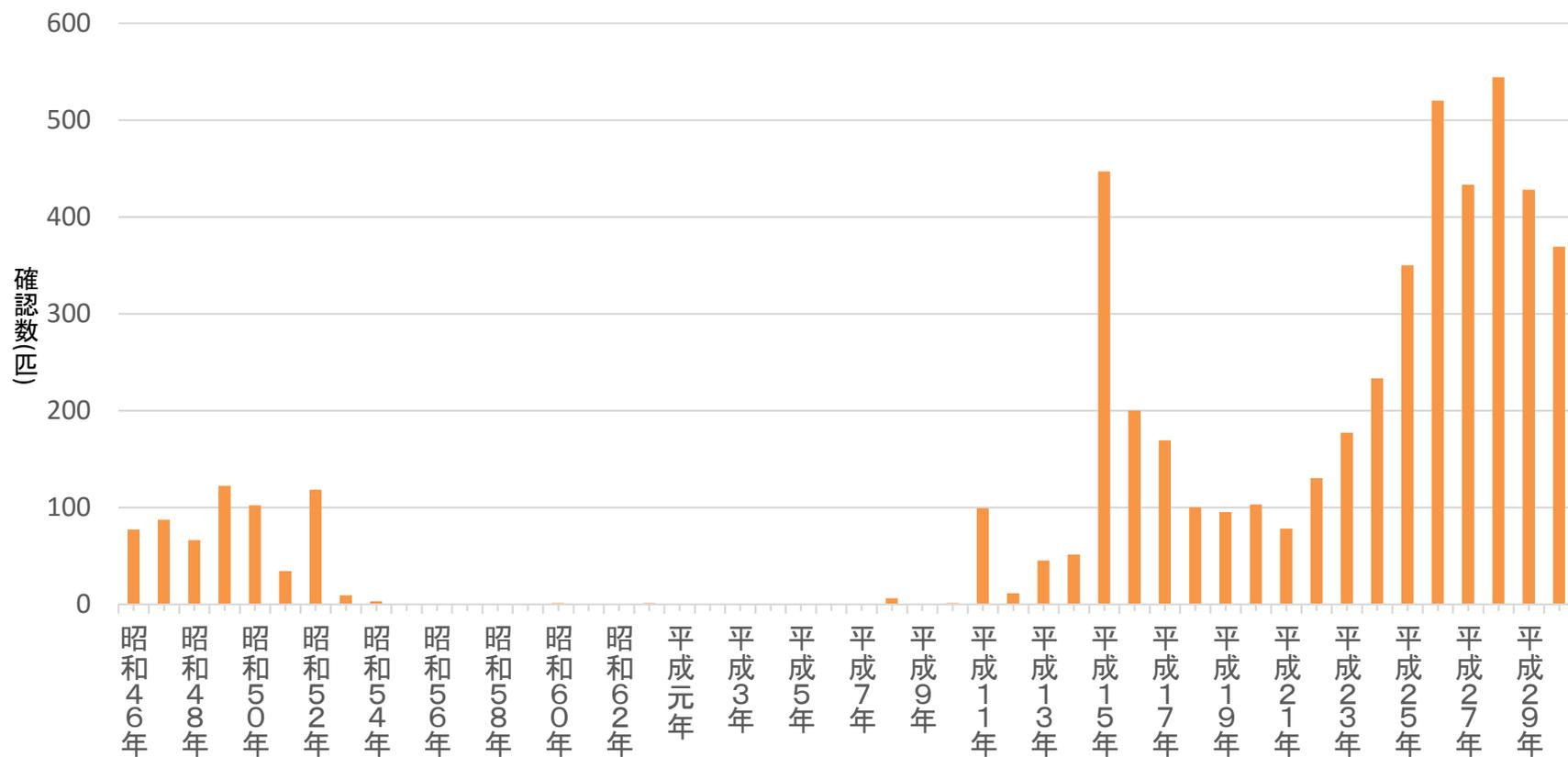
大干拓とそれにもなう水質悪化により、笠岡のカブトガニは一時危機的状況になった。

# 3, 笠岡のカブトガニ生息数の推移

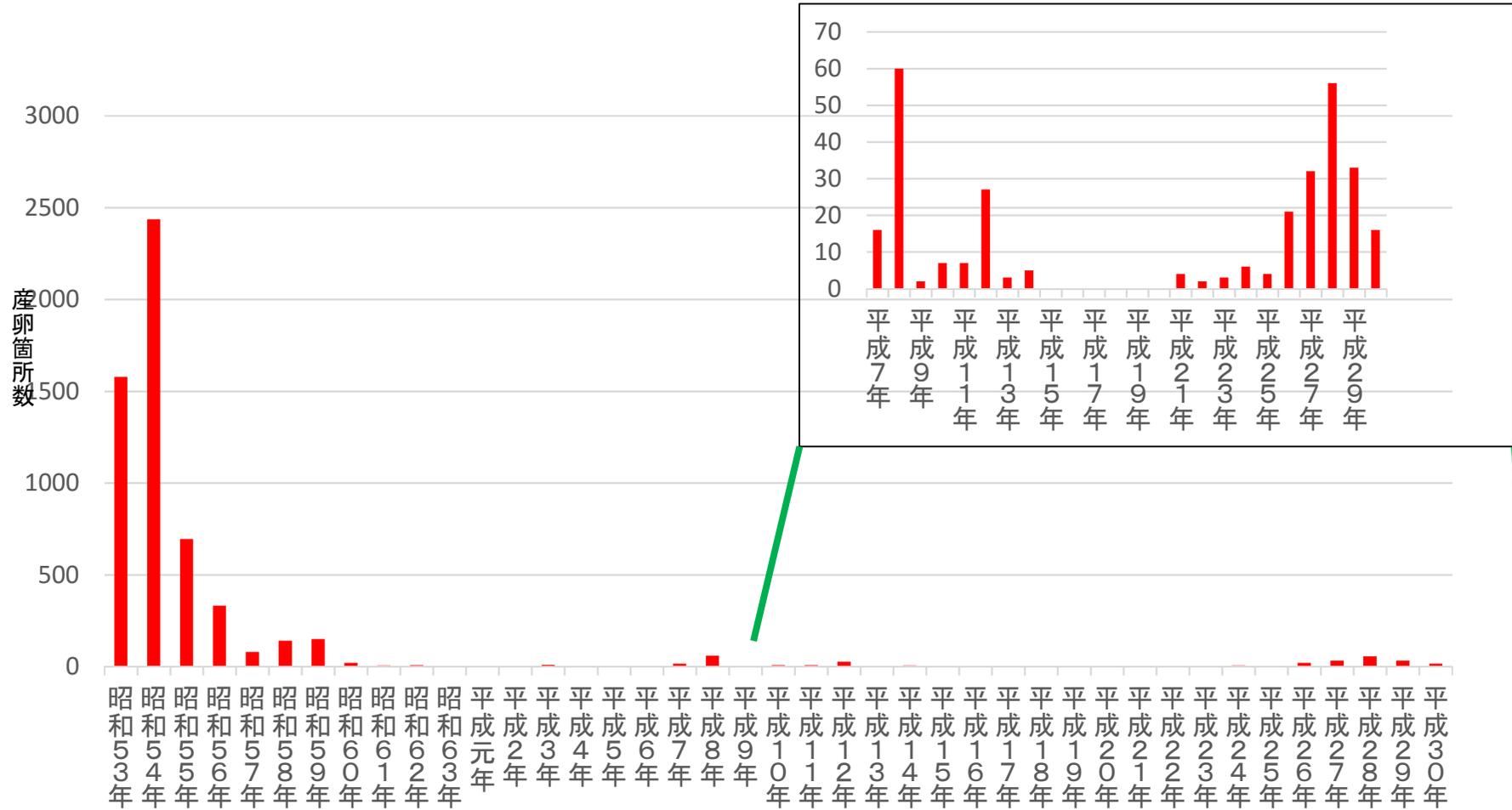
笠岡における昭和59年から平成30年までの捕獲数



# 笠岡における昭和46年から平成30年までの幼生確認数



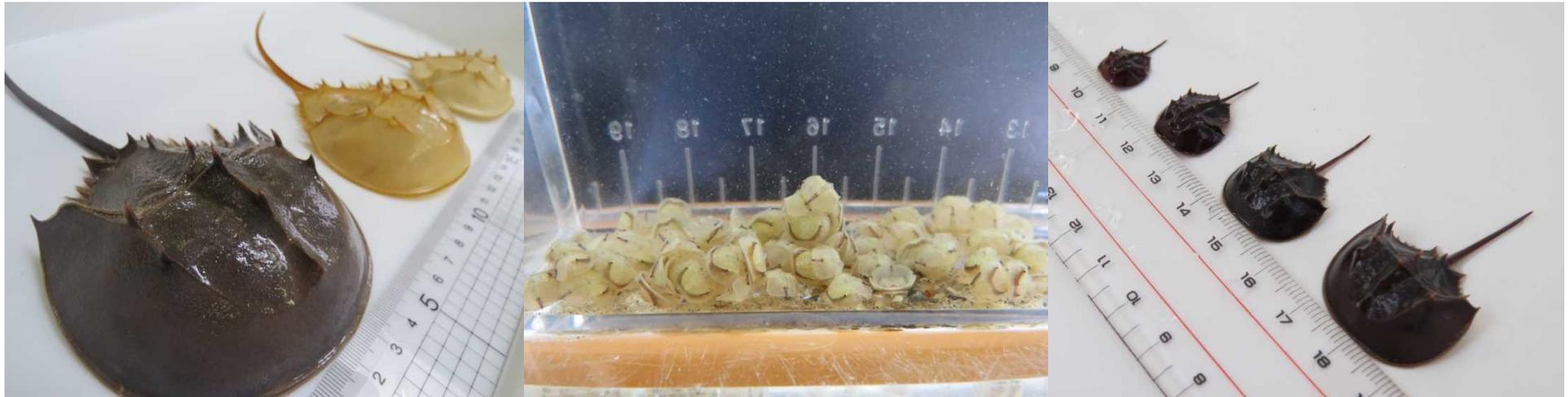
# 笠岡における昭和53年から平成30年までの産卵確認数



## 4, カブトガニの保護と今後の課題

カブトガニを保護するためには次の2点が要

### ・カブトガニの人工飼育



### ・生息地の保全

河川の流入がある河口付近の砂浜(産卵場所)

その近くにある干潟(幼生の生息地)

汚染されていない海水(幼生・成体の生息地)

カブトガニの幼生放流



カブトガニの成体放流

・カブトガニ保護啓発運動  
(年2回 参加人数約200名)



・海岸クリーン作戦(海岸清掃)  
(年1回 参加人数約1,000名)



出前講座  
(小学生)



職場体験学習の受入れ(中  
学生)



カブトガニの飼育研修  
(中学生)



カブトガニの採卵体験  
(高校生)



# 浄化船による海水浄化実験



下水道の普及などによる水質改善



- ・毎年継続的に産卵が見られるようになった。
- ・干潟では様々な大きさの脱皮殻が採集できるようになった。
- ・捕獲される成体の数は、年によって増減はあるが、以前のようにほぼ0個体ということはなくなった
- ・アマモ場が以前よりも増えた(規模の大きさは年によって異なる)。

## 現状

- ・いつまで幼生の大量飼育および放流を継続するか。
- ・アサリ掘りなど小さな現状変更行為をいかに少なくしていくか。
- ・指定地とは別の新たなカブトガニの生息場所の確保  
(現状の繁殖地内で産卵場所や幼生の生育場所を人工的に造成するのは困難)

## 課題